

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：34105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02243

研究課題名(和文) 伝統宗教の「次世代教化システム」の継承と創造による地域社会の活性化

研究課題名(英文) Revitalization of local communities by inheriting and creating the "Next-Generation Systems for Edification" of traditional religions

研究代表者

川又 俊則 (Kawamata, Toshinori)

鈴鹿大学・こども教育学部・教授

研究者番号：40425377

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：農山漁村同様、伝統的宗教集団も「強くて弱い」存在である。人口減少のなかで衰退や消滅も論じられる。しかし、青年宗教者の新たな教化活動が信者・住民へ浸透し、宗教集団が活性化すると同時に、地域住民と宗教集団との交流が地域外の人びとに広がって地域が活性化していく。このように、宗教の視点を地域研究に導入し、従来の研究で捨象されていた次世代教化活動が、地域社会に活性化をもたらしていることを示し、宗教集団の継承と創造の可能性を見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本科研は、地域振興の視点から宗教を伝統文化や年中行事の提供者に過ぎないと見なす先行研究に対し、そこに生きる人びと自身のライフコース上に必要なものと見る視点を加え、一過性ではなく、持続可能な集団たることを示した。若手宗教者は宗教青年会や超宗派的組織で活動し成長していくが、全国各地に各種存在することも示した。宗教青年会の研究は思想史的観点による成果が多数あるが、同世代と共に数十年、多様な役割を果たす経験が宗教者のライフコース上意義あることと、それが次世代教化システムとなっていることを示した。

研究成果の概要(英文)：Like farming and fishing villages, traditional religious groups are "strong and weak". Their decline and extinction are also discussed in the context of a declining population. However, as the new edification activities of young religious leaders penetrate the believers and residents and revitalize the religious groups, at the same time, the interaction between local residents and religious groups spreads to people outside the community and revitalizes the community. Thus, by introducing the perspective of religion into regional studies, we have shown that next-generation edification activities, which have been neglected in previous studies, have brought revitalization to local communities, and we have discovered the potential for the inheritance and creation of religious groups.

研究分野：宗教社会学

キーワード：次世代 継承 教化 超宗派 子ども会 青年会 伝統 ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

2050年までに総人口が9000万人に縮小し、高齢化率も約40%となる予測に対し、「地方創生」として過疎地域の若年人口減少を食い止める政策が議論されていた。だが、そこに寺院や神社など宗教集団を活かす提案はない。参照力の高い社会学的な過疎研究などでも宗教は等閑視されていた。しかしながら、アメリカの過疎研究でキリスト教会の地元密着型が安定する実態が報告され、欧米の新宗教でも信者の高齢化と信仰継承の課題が問われているなど、人口減少・超高齢社会自体と宗教が無関係ではあることはない。本科研のメンバーらは、それぞれの過去の研究で、宗教による地域ネットワークの拠点機能と次世代継承、地域創造の可能性を見出している。例えば、子ども会や青年会を50年続けてきた寺院や団体、婦人会・壮年会を運営する宗教集団に、過疎地域における地域ネットワークの拠点機能と次世代継承、地域創造の可能性がある。

2. 研究の目的

「地方創生」をスローガンにした政策に、過疎地域の若年人口減少を食い止める方途として「宗教」への視座は見られない。だが、第一次産業のように過疎地域に存在する伝統的宗教集団で成功している「次世代教化システム」は多方面で応用できる。宗教集団の「次世代教化システム」が、過疎地域の活性化に応用できると示すこと、さまざま継承可能性を提示することが本研究の目的である。その際、ジェンダーの視点を取り入れ、一般社会で当たり前の男女共働が、現代宗教界でどういう実態にあるかも注目した。

本科研では、宗教の教職者を養成する大学や神学校だけを「次世代教化システム」と見なしてはいない。寺院・教会が信者を問わず場所を提供してきた日曜学校、若手宗教者の現職研修たる宗教青年会、檀家や信者たちが寺院・教会を支え、地域社会と触れ合う壮年会、婦人会なども該当する。宗教系の中学や高校も宗教者を育てるといふより、宗教に親しみをもち生徒を育てている。これらは、メンバーシップが主に年齢（や家庭内の地位）で定まる年齢階梯集団でもある。

これらを「次世代教化システム」と呼ぶ。

本科研は、メンバーのこれまでの調査地及び新たな調査地（調査対象）において、過疎地域と宗教を「次世代教化システム」の観点で考究を進め、先駆的な取り組みなどを見出していくものである。

3. 研究の方法

「次世代教化」に関する歴史、宗教、地域社会、社会教育などの基礎的データの収集、先行研究・関連研究等を含めた文献調査、個別情報収集を行った。とくに、仏教界・キリスト教界・神道界などの最新情報は業界関連の専門紙誌やウェブサイトを確認し、関連研究等を含めた文献調査・個別情報収集も行った。メンバー個々の現地調査と並行して、共同調査やオンライン研究会を定期的に行った。

4. 研究成果

高度経済成長期後の急激な人口減少でも存続できていた農山漁村を「強く弱い」と評することがあるが、伝統的宗教集団も同様であった。現在は「人口減少」ゆえに衰退・消滅と煽り立てる風潮もあるが、本科研では、宗教集団において継承と創造の可能性を見出した。例えば、地域社会で拠点機能を発揮し、コロナ禍を乗り越える創意工夫と社会救済活動の実践を行っている神社などがある。先行研究では、地域振興の視点から宗教を捉え、外部から観光者を呼び寄せる「伝統文化」「年中行事」の提供者に過ぎないとされたが、そこに生きる人びと自身のライフコース上に必要なものとして見直す視点を加えることで、一過性ではなく、持続可能な集団たることも示せた。

さらに「次世代教化」として、若手宗教者が所属法人の個別活動のみならず、教団若手組織における活動（宗教青年会）や、超宗派的な組織による活動が全国各地で存在し、活動によっては数十年単位で継続していることなどを確認した。とくに過疎地域において、「宗教青年会」活動は地域社会に様々な活性化をもたらしていた。

このように、「宗教」の視点を地域研究に導入したことで、これまで捨象されていた地域の活動に光が当てられた。「宗教青年会」自体は、明治・大正期の仏教青年会や、宗教系大学の歴史的展開について、思想史的観点で従来から注目され、研究成果が多数挙げられていた。だが、約20年にわたって同世代の団体に所属し多様な役割を果たしていく経験は、宗教者としての実力をつけていくことにつながり、その結果、世代交代が行われていく。宗教集団の維持に貢献する宗教者を教化する「宗教青年会」に現代的意義を見出した本科研の知見は今後大いに参照されると思われる。

現在のコロナ禍という未曾有な状況で彼・彼女らの実践力は大いに期待できる。今後、継続して青年宗教者の実践に焦点を当て、現在進行形の実態をとらえたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 川又俊則	4. 巻 58
2. 論文標題 仏教青年会の現職研修 若手僧侶育成による次世代教化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 349-360
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林奈央子	4. 巻 64
2. 論文標題 鳥取からの小豆島巡拝 「東伯一心会」の活動を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山岳修験	6. 最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林奈央子	4. 巻 395
2. 論文標題 民俗宗教研究におけるジェンダー視点の必要性 - 女性行者を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 57-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川又俊則	4. 巻 56
2. 論文標題 伝統宗教の「次世代教化システム」 教育界との比較と事例検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 283-295
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川又俊則	4. 巻 91(2)
2. 論文標題 教団会計と意識調査にみる人口減少時代の維持困難さ 経済的側面を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 99-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20716/rsjars.91.2_99	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 冬月律	4. 巻 7(2)
2. 論文標題 櫻井義秀・川又俊則編『人口減少社会と寺院 ソーシャル・キャピタルの視座から』書評会報告 - 評者のコメントと論点、若干のリプライを中心に -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宗教と社会貢献	6. 最初と最後の頁 31-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川又俊則	4. 巻 1
2. 論文標題 現代宗教動向：伝統宗教集団のライフ・シフト 社会減から自然減へ向けた対応	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代宗教2018	6. 最初と最後の頁 227-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川又俊則	4. 巻 5
2. 論文標題 老いを生きる人びとの信仰 高齢者福祉施設と地域包括ケアシステムに注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会科学編	6. 最初と最後の頁 129-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川又俊則	4. 巻 59
2. 論文標題 仏教教団が実践する教化活動の脆弱性と強靱性 宗勢調査の比較考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 267-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 冬月律
2. 発表標題 神社神道における次世代教化システムの可能性と課題
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 仏教青年会の若手僧侶育成による次世代教化
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 郭育仁
2. 発表標題 寺社を中心とした文化資源の継承と創造
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 仏教の底力 現代に求められる社会的役割とは何か
3. 学会等名 天台真盛宗審議会・調査起案部会合同会議
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 次世代への教化 地域社会の活性化と創造の可能性
3. 学会等名 真言宗智山派伝法院講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 冬月律
2. 発表標題 過疎地神社と寺院の現状と課題 - 宗教団体の基幹調査から
3. 学会等名 日本人口学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川又俊則他
2. 発表標題 宗勢調査の可能性と個別課題へのアプローチ
3. 学会等名 日本宗教学会第78回学術大会第9パネル
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 次世代教化の現状と期待 宗勢調査の分析と他宗教・他宗派の事例から
3. 学会等名 曹洞宗三重県第一宗務所現職研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 次世代の檀信徒教化を考える 様々な宗教の現状に学ぶ
3. 学会等名 真言宗智山派・埼玉第一教区教化研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 冬月律
2. 発表標題 神社神道における次世代教化活動の諸相 神道青年会の活動を事例に
3. 学会等名 モラロジー研究所現代倫理道德研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 冬月律
2. 発表標題 宗勢調査からみる過疎地寺院の現状と課題 神社界との比較から
3. 学会等名 曹洞宗総合研究センター第21回学術大会パネル発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 人生100年時代の信仰グラデーションと講集団
3. 学会等名 日本民俗学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林奈央子
2. 発表標題 鳥取からの小豆島巡拝 - 大山北麓地域を中心に -
3. 学会等名 日本山岳修験学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林奈央子
2. 発表標題 小豆島霊場を支えた鳥取からの巡拝
3. 学会等名 美術文化史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 冬月律
2. 発表標題 神社神道による地域活動の諸相 富山県神道青年会を事例に
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郭育仁
2. 発表標題 民際的紐帶の形成とその訪日観光振興
3. 学会等名 日本国際観光学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 伝統宗教の「次世代教化システム」の継承について
3. 学会等名 天台真盛宗滋賀教区布教団研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 人生100年時代における「次世代教化システム」と宗教法人
3. 学会等名 文化庁平成30年度不活動宗教法人対策会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 寺院消滅時代を迎えて 不活動法人の現状と対策
3. 学会等名 宗教法制研究会第100回記念公開シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 伝統仏教教団と過疎問題 課題と可能性
3. 学会等名 智山教化センター研修会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林奈央子
2. 発表標題 「講」組織のこれから 秋葉代参講・尾州鷹羽講から考える
3. 学会等名 美術文化史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林奈央子
2. 発表標題 地域を結ぶ講組織・尾州鷹羽講
3. 学会等名 名古屋民俗研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川又俊則
2. 発表標題 仏教教団が実践する教化活動の脆弱性と強靱性
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会パネル
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 大菅俊幸、島蘭進、前田伸子、川又俊則	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 196
3. 書名 仏教の底力 現代に求められる社会的役割	

1. 著者名 櫻井 義秀、川又俊則、冬月律	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 438
3. 書名 宗教とウェルビーイング	

1. 著者名 相澤 秀生、川又 俊則、冬月律	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 324
3. 書名 岐路に立つ仏教寺院	

1. 著者名 和崎春日、鈴木裕之、中野紀和、梅屋潔、東賢太郎、塩谷暁代、小林奈央子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 830
3. 書名 響きあうフィールド，躍動する世界	

1. 著者名 長谷部八朗、牧野眞一、川村忠伸、大谷正幸、鈴木昂太、高木大祐、西村敏也、小林奈央子、阿部友紀、岡山卓矢	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶友社	5. 総ページ数 309
3. 書名 「講」研究の可能性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

川又俊則・冬月律・小林奈央子・郭育仁・李賢京・隈本正樹『伝統宗教の「次世代教化システム」の継承と創造による地域社会の活性化』科研（17K02243）報告書、鈴鹿大学こども教育学部川又俊則研究室、A4判、70ページ
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	郭 育仁 (kaku ikujin) (10761603)	鈴鹿大学・国際人間科学部・准教授 (34105)	
研究分担者	小林 奈央子 (kobayashi naoko) (50597135)	愛知学院大学・文学部・教授 (33902)	
研究分担者	冬月 律 (fuyutsuki ritsu) (70726950)	麗澤大学・外国語学部・講師 (32506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------